

令和3年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

1 附属高等学校天王寺校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

463人(男子230人・女子233人) (令和3年4月1日現在)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 28人(うち, 臨時的雇用5人, 育児休業1人, 再雇用職員2人), 非常勤講師 11人
事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人

2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、平成21年度よりSSHの指定を受け、現在SSHの目的にそった教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、生徒会・自治会やホームルーム等の集団における、生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属高等学校天王寺校舎令和3年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。また, 生徒会・自治会やホームルーム等の集団における, 生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 生徒の学力向上と, 自律的な学習・生活習慣 の確立を進める。特に, 自宅学習における自立 性, 主体性の育成を図る。	自立した読書人を育てることを目標 に, 授業内に思考・判断・表現の過程を 充実させ, 主体的な学びの機会を創出す る。(国語)	ゲーム作成や授業を構成する活動を通 じて, 個々の学習者が主体性を発揮し, 思 考・判断・表現を行う機会を創出する方法 を提案することができた。	各個人の語彙の習得や読みの力の 育成が, 他の場面でどのように発揮 され, 他の活動と有機的に結びつく かどうかを検討する必要がある。	A		A	特記事項なし
	社会科共通の学習の到達目標を考え, 生徒自身が自立的に学習を進めていくこ とができるように指導を行っていく。ま た, その際に多角的な視点から社会的事 象について思考する能力の育成を図る。 (社会)	ICT 機器の活用により生徒自身の自立的 な学習の深化を促す, 授業が展開できてい る。配信だけでなく, ICT を用いてデスカ ッションなども行っている。	生徒が主体的に学習を進めていく 手段として ICT 機器の活用方法を今 後も, 検討しさらに実践をすすめて いく必要がある。引き続き中高 6 年間の学びにおいて, 自立的な学習 とは何かを, 継続して議論し連携を 深めていく。	B		B	特記事項なし
	前年度からの, Classroom を用いた問 題・プリント配付を行うことは今年度も 継続して進める。1年を通してオンライ ンで問題・資料配布を行うことで, 学校 での学習だけでなく自宅学習も充実を目 指すが, 家庭でのネットワーク環境に差 があるので, どの生徒も適応できるよ うに柔軟に取り組み, 自律的な学習・生活 習慣の確立を進める。(数学)	Classroom を用いた問題・プリント配信 だけに留まらず, 補充教材や授業を撮影し た動画などの配信も行い, 学習保障を行う ことができた。	Classroom を用いた自宅学習をより 促進させようと計画していたが, 教材研究や校内業務の合間を縫って 行う業務ということもあり, 生徒に とって十分な教材提供には至らない ときがあった。	B	確実に資料配付され, 提出についても管理 されているのでよい と感じた。Classroom を使用していない教 員もいる。	B	特記事項なし

<p>課題解決的な学習過程で授業を進める中で自主・自律的な行動能力を高める。自宅でも授業について知ることができるよう紹介する。(保健体育)</p>	<p>生徒が主体となって自主的に活動する機会を多く取り入れることができた。一つの種目にとらわれず、多くの生徒が積極的に運動に参加することが出来ていた。</p>	<p>がんばりすぎてケガをするといった状況もあり、自分の体力を知り、セルフコントロールが必要な生徒もおり、積極的な声掛けが必要であると感じた。</p>	<p>A</p>	<p>ゲーム形式でも生徒たちで工夫し楽しく授業しているようであった。</p>	<p>B</p>	<p>特記事項なし</p>
<p>学習意欲を促すような課題設定を行い、生徒自身の目標や計画に対して継続的に振り返りながら自己修正していけるように支援する。また、一律の指導だけでなく生徒自ら学習方法や学習内容を選択できる場面を用意する。(英語)</p>	<p>課題の大小を問わず、内容や方法に生徒一人ひとりの自由選択の余地をあえて残すことで、意欲的な取り組みになるよう工夫した。年間を通して、様々な場面で自身の目標設定とその振り返りを書かせたことで自己内省の機会を創出した。</p>	<p>自立性や主体性をさらに高めるためにどのような工夫をしているか、教員間の共有が少なかつたため、今後は中高での普段の会議から話題にしていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>目標から逸脱している教員が複数見られる。学年により質の差がある。</p>	<p>C</p>	<p>教科内で情報共有し、教員間のばらつきがないようにする。</p>
<p>校務支援システム導入を機に、さらなる中高の連携のあり方を工夫する。Google-workspace(クラスルーム等)の運用の支援を行いながら、自宅での学習環境を整え、学習の自立性・主体性をはかる。(教務)</p>	<p>(中高)学習支援においては、すべての教員がGoogleクラスルームを十分に活用することができている。マイクロソフトのチームスを用いて、中高における時間割の共有等も行っている。</p>	<p>(中高)チームスを用いてより円滑な中高の教務情報の共有を図る。</p>	<p>B</p>		<p>B</p>	<p>特記事項なし</p>
<p>① 3年間を通して、どのような問いを投げかけるのか?など、各学年の教員が進路指導における最適解を考えるための資料を残す。 ② ①をもとに各内容をブラッシュアップし資料化を進める。「中高連携」の要素も検討して組み込む。(進路)</p>	<p>① 資料の蓄積・整理をした。 ② 新たな試みなども増えた。引き継いでやるかの検討はあまりできていない。</p>	<p>① 固定化した方がよい取り組みなどを今後検討していきたい。 ② 新たな試みなども増えたが、引き継いでやっていくのかなどの検討はあまり着手できなかったため、今後行っていく。</p>	<p>B</p>	<p>A 評価でもよいのではという意見があった。</p>	<p>B</p>	<p>進路指導の目標の実現に引き続き取り組む。</p>
<p>① 学芸会や音楽会(中)、附高祭や音楽祭、長距離徒歩(高)等の行事や議会運営等の学校生活のあらゆる場面で生徒の主体的で自立的な活動や自治を支援し、生徒の成長場面を保障する。 ② 昨年度の知見を生かし、十分な感染対策と行事開催を両立させ、生徒の達成感や自己肯定感を育むような行事開催の方策を提案し主導する。(生指)</p>	<p>感染対策と行事目標の両立を掲げ、中学では1年ぶりに学芸会を開催した。声優システムの試行などの柔軟な提案と緻密な準備で学校行事をリードし、生徒の活動場面の保障に貢献できた。また、高校でも様々な制約の中ではあったが、附高祭、音楽祭を去年より通常の形態に近い形で開催することができた。音楽会(中)や長距離徒歩(高)も、これまでの経験や実績をもとに開催する方向で取り組みを進めている。</p>	<p>行事開催の是非や、制約に関する教育的判断の可能性や種類、タイミングを事前に生徒と共有し、学校側の判断で生徒が自分達の活動を否定されたと感じる事が無くなるよう心がける(高)。</p>	<p>A</p>	<p>・行事中止に生徒はよく対応したと思う。 ・行事開催に向けて生徒たちの達成感自己肯定感は育めたと強く感じる。 ・コロナの中でも工夫して開催している様子で素晴らしいと思った。 ・音楽祭が開催されとてもよかった。コロナの中工夫し取り組んでいる様子が配信され、親子共に感動を味わうことができた。</p>	<p>A</p>	<p>生徒主体の行事の実施について保護者の方にはご理解ご協力をいただいている。生徒とはコミュニケーションを密にし、保護者へは情報発信を積極的に行う。</p>

<p>(2)互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に発揮させる。</p>	<p>言語活動によって、各人が「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の活動に取り組む機会を設定し、国語力を育てる。お互いの活動を比べ、評価することによって、国語への興味関心を育てる。(国語)</p>	<p>各授業者が授業内に多くの言語活動を設定し、4領域の能力の育成を目指した授業を展開することができた。また、相互評価の機会を多く設定することにより、より主体的に授業に取り組む学習者が増えた。</p>	<p>言語活動ありきにならない、読解力の育成や知識獲得を担保する授業展開を模索する必要がある。上位学年では高度な文章を主体的に読解しようとする姿勢の獲得について議論を進める必要がある。</p>	A		B	特記事項なし
	<p>実験や観察などを多く実施し、「協働する能力」や「個々の資質」を伸ばすための授業実践に取り組む。(理科)</p>	<p>各科目でこれまで行ってきた生徒の協働的な教育活動を Chromebook などの ICT 機器等も活用して実施した。オンラインでも対応可能な教材開発や効率化、質の向上に取り組んだ。(例、課題作成や発表に Chromebook を活用。振り返りに Google Classroom を活用。など)</p>	<p>ICT の活用により、効率化や共有のしやすさは向上している。伸ばす能力の体系化を十分に行えば、よりいっそう効果が高まると考えられる。</p>	A	「協働」は難しいと思われる。	B	内容を精査し、さらに取り組む。
	<p>演奏発表機会の拡充・他者と協働して音楽を創りあげる経験を通して、自分自身を客観的に捉え、独りよがりでない自己表現力を身につけることができる授業を展開する。(音楽)</p>	<p>グループでの発表を多く取り入れ、中高どの学年においても発表する機会を大切に、アンサンブルを通して生徒自身が自己表現する喜びを実感できるように工夫して授業を展開した。</p>	<p>コロナ禍でマスク着用がスタンダードとなり、お互いの顔の表情が半分見えない中での授業が続いている。表現力を育む上で表情はとても重要な要素であるので、どのようにカバーしていくのが課題である。</p>	A		A	特記事項なし
	<p>協同学習を取り入れ、互いを尊重し合う姿勢を育てる。多様な価値観を持った一人ひとりが意見を交流し、個々が特性を活かして協力し合うことで、生徒が自己肯定感を高められるようにする。(英語)</p>	<p>協同学習を取り入れ、生徒同士で対話を重ねながら合意形成や意見交流をさせたことで、1人で取り組む以上の学びを生み出す経験をさせることができた。</p>	<p>活動の目的に応じて適切な授業形態を選択し、取り組みをさらに活発にさせるための仕掛けを工夫したい。また、活動後にはより効果的なフィードバックを与えられるよう教科で研鑽を積み重ねていきたい。</p>	A	グループ発表はグループ1人に発表内容を考えさせられ大変だった。	A	教科内で情報を共有する。
	<p>全教員が生徒会・自治会指導、部活動指導、議会・委員会の運営等に積極的に関わる体制を構築し、分掌として組織的に支援する。校種や発達段階に応じた指導体制を確立し、生徒一人ひとりが成長し活躍できる学校を目指す。(生指)</p>	<p>多くの教員が自治会活動や部活動を通じて生徒の活動に積極的に関わることができた。自治会や議会、有志の動きについて各教員と更に共有を図るべき場面が見られた(高)。</p>	<p>自治会顧問による職員会議での報告や、各学年会における生徒指導部員からの報告を活用し、全教員が自治活動や HR 活動に対して主体的に関わる環境づくりに取り組んでいく(高)。</p>	B	自治会活動については感染対策も難しいと思うがもう少し無理して実施して欲しかった。	B	感染状況を見ながら、積極的に実施する方向で取り組む。
	<p>自由研究や SSH の課題研究だけでなく、教科教育においても課題や問題の発見・提起を生徒が主体的に取り組む。それを出発点として「協働的」で「深い学び」をめざす教育方法の開発を、学校組織として取り組む。(研究)</p>	<p>「協働的で深い学び」をめざす授業がより多く実践されている。しかし、これらの取り組みは、教科単位であり、学校全体とはなっていない。そのため、研究推進日では教科を混合し情報交換する場を設定した。</p>	<p>教科間の枠を超えた情報交換の機会をさらに増やすとともに、学校全体の組織的な取り組みにする必要がある。</p>	B		B	特記事項なし
	<p>姉妹校生徒との交流プログラムを通じ、生徒が、設定した目標に向けて協働してプログラムを作り上げる機会を提供する。(国際交流)</p>	<p>リモート形式ではあるが、タイ姉妹校との文化交流を2回実施した。生徒個々の目標に合わせて活動を計画させ、力を発揮させる場となった。</p>	<p>短時間だったため限られた交流であった。より長期的な生徒同士の関わりを促したい。</p>	A	タイとの英語での交流はリモートであったが子どもは貴重な経験だと喜んでいる。	A	継続し頻度を増やす。またコロナ後もリモートも積極的に活用する。

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取組を行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	(中高)校務支援システムへの移行が円滑に行えるよう教務システムのさらなる改良を行うとともに、教員に周知徹底する。(教務)	(中高)校務支援システムを用いて出欠の管理や成績処理を行った。システムの移行は円滑に行われつつある。	(中高)校務支援システムのさらなる活用のあり方を進路指導部とも連携して考える。	A		A	特記事項なし
	① AiGROW や PROG-H などの非認知能力の測定ツールの導入や活用方法の検討 ② 進路関係の業務改善 調査書チェック関係の一部マニュアル化(学年判断領域の明確化)によるリスク軽減と主体性の維持 ③ 進路指導部管轄の各部屋・場所の最適化 ④ 実施する模試の最適化(定点調査と卒業生比較のために模試の内容を統一する)(進路)	① 会議で学校実施には至らなかった。 ② マニュアル化を行った。 ③ 自習室の進路資料機能の付加はしたが、感染防止の関係で、運用はできていない。職員室の資料置き場は縮小し、3学年の廊下に移動させた。 ④ 1, 2学年で実施する模試を統一した。	① 学校として必要性が出てきたときにまた PROG-H テストを提案していきたい。 ② 次年度マニュアルを運用しながら、よりミスがでないようにブラッシュアップしていく。 ③ 自習室の代わりに機能として、最適なものを3年生の廊下に設置していきたい。 ④ 定点調査ができる状態にはなかったが、データの処理などはまだ着手できていない、可能なら業者とも協力してシステム化していきたい。	A	早急なシステム化を願う。国公立の推薦入試の情報提供を望む。	A	意見を参考に取り組む。

(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	「安全」と「感染防止」への意識を高める指導を引き続き徹底する。毎週の中高合同での教科会議において、気づきを共有し、より安全性の高い授業を実施する。(理科)	講義室と実験室に除菌用アルコールなどを4名に1つずつ設置するなど、設備面での対応をした。「安全」「感染防止」の指導面での対応も引き続き行い、問題なく授業実施を行えた。毎週の中高の教科会議で、情報共有をしながら、集団として意識をしながら実践ができた。	今のところ大きな課題はないので、今後も継続していく。	A		A	特記事項なし
	老朽化している体育施設の補修や器具等の安全チェックを行う。物品の管理、整理整頓を行う。(保健体育)	中高それぞれの倉庫に分けることで整理整頓がしやすくなり管理もしやすくなった。	体育館の雨漏りや倉庫の扉が破損しているなどの状況は、解決できていない。	A		A	特記事項なし

<p>昨年度に引き続き、音響機材や多くの楽譜等物品の整理、置き場所の変更・廃棄を進め、生徒・教員双方が利用しやすいように音楽室と音楽研究室の整備を進める。(音楽)</p>	<p>昨年度に引き続き、事務室や校務員と連携しながら、物品の整理・置き場所の変更をすすめた。</p>	<p>本校の音楽室には楽器庫がないため、楽器を安全に保管する場所がない状況が続いている。事務室や大学と連携し、引き続きこの状況の改善を具申し、生徒たちが安心して音楽活動できる環境を整えていきたい。</p>	B		B	特記事項なし
<p>学校が有する防犯、災害リスクに対して、生徒・教職員がリスクを共有し、予防的行動を適切に行えるように、訓練やマニュアルの整備を行い、生徒・教員の減災・防犯意識を高められる安全教育を推進する。(健人)</p>	<p>避難訓練における実施要項の変更や12月の緊急地震速報発令時の対応を踏まえて、マニュアルの改訂を進めている。また、コロナウイルス感染症の影響のなかでも精選して避難訓練や防犯・防災を考える学習を教科連携で行い、防災意識の向上に努めた。</p>	<p>コロナウイルス感染症や避難訓練などでの実際の行動を踏まえて、マニュアルについても避難方法の見直しや各種災害における対応の見直しを次年度以降のマニュアルに反映させていく。学校からの安否情報だけでなく、学校不在時における生徒の安否情報を生徒や保護者からメール送信してもらうシステムを構築中。来年度から施行予定である。</p>	B		B	特記事項なし
<p>雨漏り、設備の不具合など、事務室と連携をとって改善を図る。(庶務)</p>	<p>教室のドアなど危険箇所を中心に、校務員さんや事務室と連携して修理を実施した。</p>	<p>技術室の椅子の更新、理科教室のカーテン設置など、生徒の学習環境の改善を進めてもらうように要望をしている。</p>	A		A	特記事項なし
<p>感染症対策、熱中症対策を始めとした各種対策を生徒が考える場を確保し、教員の目線による支援や助言を行い、生徒の責任感や危機管理意識の醸成に努める。(高)(生指)</p>	<p>行事において各委員会から有効な感染防止対策が出されるよう、支援を行うことができた。年間を通じて、行事準備や行事開催に起因すると思われる集団感染を防ぐことができた(高)。</p>		A		A	特記事項なし

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に 対応した教科指導法の工 夫と、カリキュラム全体 の改善を図る。また、ICT を活用した学習指導の実 践を進め、その効果と課 題を探る。	新学習指導要領における新しいカリキュラムを意識して、「生きる力」「学ぶ力」の育成のため中高社会科が連携し、情報交換、授業見学などを積極的に実施していく。(社会)	教育研究会を踏まえて小中高の情報共有については概ね達成できたものの、コロナウイルスまん延の影響で中高相互に授業見学を行う時間を確保することができなかった。	STEAM 教育の実践を踏まえ、小中高の授業実践や情報の共有化をはかり研究推進日などを計画的に活用して時間設定を行い、中高相互の授業見学を行っていきたい。	C		C	特記事項なし
	日常にある事象を数学的に解決できるようにし、思考力が養えるような授業展開を検討していく。また、ICT を活用すべきである単元をより明確にし、視覚的に理解させたり、深く考えさせることが出来るような教材の開発や研究を進める。またその過程で教科横断的な学習指導も見据えて教科で検討する。(数学)	数学的探究活動を軸とした教材を模索し、各教員が実践した。代数学・幾何学・統計学やコンピュータなどの数学固有の分野だけに留まらず、教科横断型の授業を実践した経験を蓄積できた。また、ICT を用いて数学的な見方・考え方を楽しむことをきっかけに深く考えさせることが出来る教材開発を進めることができた。	複数の授業実践は出来たが、新たな教材を考案するための時間がかかり、授業実践前に教科で検討する機会を持つことができなかった。授業実践後、教科会や推進日を用いて共有することはできたため、来年度への活動に繋げていく。	A		A	特記事項なし
	中高を通した学びの体系化について検討する。「資質・能力の育成」を図るために、中高のカリキュラムマップを作成し、「中高連携」や「科目横断」の方法を検討する。また、毎週の科会はず中合同で行い、授業実践や研修の情報なども共有する。そのような機会を活用し、個々の授業改善や、中高および科目間での連携などを検討し、新たな実践を行う。(理科)	学びの体系化を中高で行った。 毎週の中高の教科会議でも意見交換をしながら実践についても共有し、様々な手法を試している段階である。	次年度は、実践と協議を継続しながら、体系化したものの妥当性を再検討し、ブラッシュアップしていく。	B		B	特記事項なし
	ダンス等の種目においてタブレット等を利用し動画を撮影し、動きを改善することに役立っているなど、ICT を有効活用できるよう授業実践していく。(保健体育)	ダンスやなぎなたの授業では、タブレットやプロジェクターなどを利用し、生徒がより理解しやすい授業を工夫することができた。また、持久走では大学と連携し、ICT を活用した運動中の身体情報可視化の効果を検証することができた(論文作成中)。	大学や他機関と連携した授業の取り組みを今後も継続していきたい。	A		A	特記事項なし

	異学年集団による音楽授業を試行し、その効果と課題を探る。(音楽)	中学1年生と2年生を対象に合同歌唱単元を実施した。同じ学年だけでは生まれたい「対話的で深い学び」がみられ、歌唱に対する意識が高まった。	中高一貫校である強みを生かし、次年度は中学と高校の混合音楽授業を試行し、その効果と課題を探りたい。	A		A	特記事項なし
	非認知能力の育成を念頭に授業内外でのICT活用を推進し、自ら学び続ける生徒を育てる。(英語)	全教員が共通して使用している Google Workspace だけでなく、ソフトウェアやアプリなども自由に試しながら生徒に多様な学び方を提供することができた。	ICT の活用について、効果を個々が試し、検証して、今後も教員間で共有していきたい。	B		B	特記事項なし
	(高)カリキュラム作成における教務部の役割を明確化する。また、オンライン学習時に備えて体制を整えておく。(教務)	(高)兼任の教務部員を中心にカリキュラム委員会において新カリキュラムの作成を行った。ゲーグルクラスルーム等を用いたオンライン学習の構築にも全教員が積極的に取り組んでいる。	(高)緊急時のみではない、日常的なリモート学習の可能性を模索する。	A		A	特記事項なし
	天王寺地区のテーマであるSTEAM教育について、研究推進日や小中高研究部会を活用して、教員研修や情報交換の場を設定する。さらに、複数教科による教科横断型の教材開発を検討する。(研究)	STEAM 教育に関する講演会や小中高研究部会での事例の紹介などを行った。また、教育研究会でも STEAM 教育をテーマとして講演会を開催し、教員間で一定の理解が定着した。また、複数の教科が、教科横断を重視した取り組みを発表した。	今後、さらに ICT の活用を進めるとともに、教科横断型の STEAM から教科統合型の実践に取り組む必要がある。また、評価についても検討する必要がある。	A	教科横断の取り組みの生徒への還元を期待する。	A	教科横断については継続し取り組み生徒への還元を行う。
	ケーブルなど ICT 機器の管理を行う。 新 Google アカウントの配布に向けてネットワーク利用規約を作成する。(庶務)	WiFi apricot の利用開始に伴い、ICT 支援員の補助を受け、共用機器の現状確認、使用可能・不可能機器の分類、ソフトウェアの更新などを行った。 新 Google アカウントを WiFi 利用希望生徒に配布した。	デバイス管理設定など、生徒個々人の細かいトラブルに対応する必要があるため、専門家の配置を希望する。 附属学校課・教務部など他部署と連携し、ICT 環境の改善を図る必要がある。	B		A	特記事項なし
	交流プログラムが教科横断的な学びを実現する機会となるよう、他教科の教員と協力して事前指導を行う。また、新たに海外研修を企画・立案する。(国際交流)	平和学習や国際協力の内容を組み込んだプログラムの検討を進めた。参加生徒を募り、行程の具体化を進めた。海外研修については、新規事業の検討を行った。新型コロナウイルスの感染状況が改善せず、実施は見送りとなった。	実施に向けて下見等を行うとともに、海外研修に関しては姉妹校と協力してプログラムの具体化を進める必要がある。どのように他教科と協力が可能か検討を進める必要がある。	B	アメリカ行きをもう少し検討して欲しかった。	B	実施に向けて努力を続けたが、学校で対応できる問題ではなかった。
(2) 社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取組を進める。	生徒の発達段階に応じた言語能力の獲得や、教材への向き合い方、評価の方法を検討し、中高で継続した指導の実践を試みる。(国語)	小中校で複数の実践交流会を行い、報告後の質疑応答も含め、発達段階に応じた教材への向き合い方、評価の方法を検討することができた。	4 領域や評価の観点ごとに応じた小中高でのつながりや実践の在り方について検討を進め、共有していく必要がある。	B		B	特記事項なし
	中高連携や他教科との連携を通して、多角的な視点で社会事象を認知し、多様性に着目して自らのテーマを設定し、積極的に表現・発信できる生徒の育成を図っていく。(社会)	それぞれの教員が、多様な授業形態を積極的に試行し、生徒自らが自分の考えを議論しながら社会的な事象に対して多角的な立場・視点から説明しようとする能力の育成につとめた。	コロナウイルスまん延の状況でグループディスカッションやフィールドワークの実施など学習方法に制約がある中でも、生徒が多様な立場や視点を育成できるような場の設定や工夫の必要性を感じた。	B		A	特記事項なし

	本物との出会いを通して社会課題について学び、考え、行動する実践的意欲を持った生徒を育てる。中高で一貫した指標「附属天王寺英語科 CAN-DO リスト」を作成する。研究集録に上記に向けて情報共有したこと等を研究集録にまとめる。(英語)	映画や海外との交流、講演会など教科書を超えた学びを提供した。また、中高それぞれでCAN-DO リスト作成に取り組み研究集録を執筆することができたが、今年度の目標であった中高で一貫した指標を作るまでには至らなかった。	中学と高校の接続について協議し、一貫した指針を持てるようにしたい。作成したCAN-DO リストをもとに授業実践を行い、共有していきたい。	C		C	特記事項なし
(3)本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・地域活動での地域との連携を進める。	音楽を通した高大連携を進め、本校生徒による音楽性の高い演奏を多くの方に聴いていただく機会を創出し、ホームページ上で発信する。(音楽)	大学授業と連携したコンサートを校外のホールで実施し、好評であった。また、音楽授業における取り組みを本校・大学ホームページで広く発信した。	コロナ禍という制約があるが、保護者や地域の方々に本校生徒が心から音楽を楽しんで演奏する姿を、生でみて頂く機会を設けたい。	A		A	特記事項なし
	大学や地域の防災関係者と連携し、学校防災力だけでなく、地域特有の災害的特徴を踏まえて、安全教育の構築および実践について研究を進めていく。(健人)	教科単位では、中学校では天王寺区役所や消防署と連携して教科横断的な防災学習を展開したり、高校においても国土交通省や大阪府、東大阪市と連携しての学習を展開したりしたが、教員対象の防災研修などはコロナウイルス感染症の影響などで本年度は実施できなかった。	これまで以上に、他の行政機関・研究機関との連携を図るだけでなく、教員間の防災意識の向上のためオンラインなども活用した教育実践を行っていきたい。	B		B	特記事項なし
	教育研究会や研究集録を、日常的な研究成果の発表・発信の場とする。本年度は、コンピテンシーを軸として、中高のつながりを意識したカリキュラム表を作成し、『附属天王寺型一貫教育—何から始める？連携の視点を探る—』をテーマに教育研究会で公開するとともに、研究集録の充実を図る。(研究)	教育研究会では、中高一貫をテーマとして実施した。参加者の事後アンケートでは、とても満足 55%やや満足 41%また、自校の実践に役立つかの問いには、とても役立つ 54%、どちらかという役立つ 39%で好評であった。しかし一方、参加者がオンラインのわりに少なく、時期等の要因も考えられるが、検討すべき課題である。研究集録に関しては、例年になく多くの投稿があった。加えて、本年度から、研究会での発表者は執筆をお願いすることになり、充実したものとなった。	研究会において、参観者を多くする必要がある。また本年度、教科で作成したコンピテンシーを軸としたカリキュラム表を横方向にも広げて、中高のカリキュラム表へと発展させる。	A		A	特記事項なし
	交流プログラムなどの取り組みの成果についてまとめ本校WEBページ上で発表する。(国際交流)	交流プログラムの活動内容と成果をWEBページ上に掲載した。	活動回数が少なかったので、交流プログラムの充実を可能な範囲で進めたい。	B		A	特記事項なし

学校関係者評価における意見	この学校評価に関しては教科の取り組み内容が学年なのか全体なのかをわかりやすく示して欲しい。保護者からは現場のわからない部分もありますのでこのような文章だけによる評価については限界を感じます。コロナ対策など前例のない状況の中で工夫しながら進めていると理解しています。コロナ禍の中、保護者が来校する機会も制限され、生徒や教員の活動が見えにくい状況であった。さらなる情報発信をしていただきたい。感染が収まれば、従来の形での行事を実施していただきたい。
---------------	--

